

まちづくりミーティング要旨

1. 団体等の名称 高校生の子を持つ親の会
2. 日 時 平成 29 年 11 月 27 日（月） 19 時 00 分～20 時 30 分
3. 場 所 川島市民サービスセンター 会議室
4. 出 席 者 <参加団体>8 名 <市> 市長・商工振興課長
5. テ ー マ 10 年、20 年後の将来を見すえたまちづくりについて

【参加者】 川島の高校生は、天気の良い日は自転車、天気が悪い日は車で送ってもらうという子が多いと思います。これはバスの本数が少ないからだと思うので、もっとバスが多くなると良いと思います。岐阜バスの本数はもっと少なく、朝夕はまだありますが、昼間は全然なくて困ってしまいます。

【参加者】 今は自分で車を使ってどこでも行けますが、将来免許を返納した後に行きたい所に行けなくなってしまふのは嫌だなと思います。バスなど交通の利便性を高めてもらえると老後も安心です。

【市長】 ふれあいバスは平成 27 年度に大きくリニューアルを行いました。その前は 1 路線が 2 時間以上になる路線になっていました。そこでまず、1 時間に 1 本バスが来るようにしようということで検討し現在の形になりました。リニューアルして 2 年経ちましたが、この路線もまだ完成形ではありません。バス車両や運転手の確保の問題から即座に増便・増線することは難しいですが、各地区で住民懇談会を行い、地域の声をうかがいながら検討を繰り返しております。

【商工振興課長】 前回のリニューアルでは、それまでの利用実態を重要視してきましたが、最近、「免許返納をしたら移動手段を失ってしまうので簡単には返納できない」という高齢者の声が増えていますので、単純に過去や現在の利用実態だけで判断するのではなく、これからどのような移動支援を検討するかが課題です。昨年のふれあいバスの乗降調査の結果、路線によってはほとんど乗られていない時間帯（便）がありました。なかでも東西線では朝の便の利用者がありますが、その帰りや夜の便の利用者が少ないという実態がありました。現在は、そういった時間帯の便について当面、利用促進を続けてみて、次のステップでは本数が少なく、増便要望の高い川島線や稲羽線に有効活用できないかを考えていきます。また、今ある岐阜バスや名鉄バスの路線バスもしっかりと利用していただきたいです。特に、岐阜バスの岐阜川島線の平均乗車密度は 2.5 人程度で、これ以上乗れないと将来的には路線廃止ということも考えられますので、そこをまず大事にしていきたいです。

【参加者】 昔は川島に保健センターがありましたが、合併して福祉会館まで行かないといけなくなったので、もう少し子育ての面で充実すると良いと思います。

【市長】 各務原大橋の完成後は、川島よりも鷺沼東部の方が時間がかかるようになりました。各務原市は東西に長いので、東西の拠点をつくらうということで、西は福祉会館、東は鷺沼市民サービスセンターとしました。こういったことから、「各地区に」ではなく、「各務原市として東と西に」という位置付けで行わせていただいています。それとは別に、子ども館や子育て施策については充実しつつありますので、そういったことをもっと多くの方に知っていただけるような取り組みが必要かと思っています。

【参加者】 夜遅くに帰る時、川島は街灯が少ないので増やしてほしいと子どもが言っていました。

【市長】 一般に街灯と言われるものには、道路交通の安全を目的とした「道路照明」、防犯を目的とし

た「防犯灯」の大きく分けて2種類あります。道路照明も防犯灯も自治会の要望があれば、設置できる箇所であれば設置しております。しかし、設置する位置など地域の理解を得て、自治会の総意で要望していただく必要がありますので、ぜひ危険箇所等お気付きな場合は自治会長さんにご相談下さい。

【参加者】 高齢になるとわからないこともたくさん出てくると思います。そういった場合に、色々なことを教えていただけるような場があったり、困った時に頼って聞きに行ける場があると心強いと思います。私は、母の介護のことで地域包括支援センターに色々助けいただきましたので、今の子ども世代が親の介護等で困った時のためにも、そういった所があると良いと思います。

【参加者】 今は子ども会やお祭りも縮小したりなど、昔よりも地域活動が縮小気味だなと感じるので心配です。10年後に地域がしっかりしていないと、外に出た人は戻ってきたくても戻れないし、川島に戻る理由が減ってしまいます。そう考えるとやっぱり地域の力が重要だと思います。

【市長】 市でも地域包括支援センターをはじめ、医師会等々の協力をいただきながら地域包括ケアシステムの構築を進めております。地域の絆という点で、八木山地区では地区社協の補助金を使って、空き家を活用して地域の方々が集まることが出来る場を作っています。川島でも寺子屋事業の放課後学習室において、子どもと高齢者が交流するという取り組みがございます。そういったことも一歩ずつ進んでおりますので、皆さんも放課後学習室の先生等、地域でご協力いただきたいと思います。

【参加者】 川島スポーツ公園はどうなるのでしょうか。

【市長】 整備から30年以上が経過しており施設全体の老朽化が進んでいる状況で、プールも破損事故があってからは休止しています。今年度から各種目競技協会等からご意見をいただきながら、整備案を作成しています。来年度には各種競技場のリニューアルや駐車場の拡張やバリアフリー化などの実施設計を固める予定です。

【参加者】 かかみがはら DE ウォーキングに参加したんですが、高齢の方の参加が多くて、体力あふれる方々が楽しそうに参加している姿がありました。地元の人というよりは他の地区の参加者が多かったように感じます。私も年をとっても元気でイベントに参加できると良いなと思います。

【市長】 市としても、今後いかに健康な高齢者を増やしていくかということが重要と考えています。そのためにも、支え合いの体制づくりや在宅医療と介護の連携等、順次進めているところですので、皆さんもぜひ健康にお過ごしいただきたいと思います。

○参加者まとめのことは

今回、各務原市のことを考える良い機会になったと思います。これから各務原市が、ますます住みやすく良いまちになっていくことを望んでいます。

○市長まとめのことは

お子さんや皆さんの現状、自分が高齢になった時のお話、市の現在の課題や今後こういった課題が出てくるのか考えるための非常に参考になるご意見が頂けたと思います。市としては、お子さん達に将来帰ってきたいと思ってもらえるようなまちづくりを取り組んでいるところでして、「地育地就」という目標も掲げております。そういったことを着実に一歩ずつ進めていきたいと思っています。